



International Institute of Multi-cultural Studies

特定非営利活動法人

国際比較文化研究所

Newsletter

Vol. 7 No. 2 2006年 7月

鷲の宮卓話

所長 太田敬雄

私は最近ビオトープに興味を持つようになり、あるところにこんな雑文を載せました。

『最近、私はこんな話を聞きました「地球からず〜っと離れたところから地球を見ると、エデンの園から人間が追放されるよりも前の地球というビオトープでは実にうまく生命のバランスが保たれていました。ところが、人が地球上の全ての生き物の支配者になり、智慧の実を手に入れると共にその微妙なバランスは壊れ、人類のみがアンバランスに増え始めました。

それではこの美しいビオトープは破壊されてしまう。だから、人は定期的に災害で数を減らされ、それでも追いつかないときは人間同士が戦争し、殺しあう事で地球上の生命バランスを保ってきました。

ところが医学が進歩し、戦争も以前ほどは起こさなくなり、人の平均寿命はどんどん伸びていきました。困ったことに、これではこの美しきビオトープの生命バランスはこわされ、地球は破滅するしかないのです。そこで少子化によるバランスの維持が始まりました。生存率の低い生き物ほど沢山の卵を産み、生存率の高い生き物は少ない卵を産むように、高齢化した人間はその高齢化の度合いに応じて、少子化でビオトープ内の生命のバランスを保つのです。少子化は災害や戦争よりも優しいバランスの保ち方です。

それなのに、なぜあなた達人間は「少子化対策」などという愚かな発想でこの美しいビオトープのバランスを壊そうとするのでしょうか。地球の命を想うなら、全ての命を愛しいと想うなら、もっと他の生き物達とのバランスを考えなさい。人間はその増殖によってすでに地球の癌になってしまったことを知りなさい。」話の主は、こう語ると遠く地球の外へと帰って行きました。』

「ドイツ環境情報のページ」によりますと「ビオトープ (Biotop) とはもともとギリシャ語で『bio=生き物 + top=住むところ』という意味のドイツの造語」(<http://www.tiara.cc/~germany/index.html>) だそうで「一般的には“人間が生活・活動するところ”という但し書き」(同上) がつくそうです。

NPO法人日本ビオトープ協会では「自然環境は人類を含む全ての生物にとっての生活の場でもあります。多様な生物との共生の空間—ビオトープ—の確保こそ、生態系の構成の一員として大きな影響を与えている人類の務めであり、人間生活を維持して行く上でも不可欠です。」(<http://www.biotope.gr.jp/>) と記しています。

地球という生命体の維持のため、生態系全体のバランスを見守っていきたいものです。そのような考え方が多文化共生を包含する理念でなくてはならないと思います。

「多文化交流 in マラン (インドネシア)」中止に

8月末から9月に掛けて計画していた「多文化交流 in マラン」は参加者が実施に必要な人数に到達せず、中止となりました。ブラウイジャヤ大学の荒井美幸さんはじめ、大勢の方々の協力を得て、大変良いプログラムが出来ただけに残念です。

何と言ってもタイミングが悪かったようです。この所、インドネシアは津波から始まって、地震、鳥インフルエンザ、テロ、そしてもう一度津波とネガティブな情報ばかりが氾濫していました。どれも直接は影響も無く、心配は無かったのですが、このようなプログラムは、メディア情勢の影響を大きく受けてしまいます。

参加希望者だけでなく、今回の参加は見送った方々からも、中止を惜しむ声が届いています。またの機会をみて再度挑戦してみたいと考えています。

これからの研究所の活動予定

現在、研究所では8月と9月に、それぞれ他の団体との共同主催で研究会を計画しています。一つは、昨年暮に実施したイスラム文化理解のための研究会の第2弾で、安中市国際交流協会と合同で開催します。もう一つは9月に東京でNPO法人森の文化フォーラムとの共同開催で、元国連開発計画職員の坂口春海さんを招きます。一人でも多くの方の参加をお待ちしています。

また、11月には全国ボランティアフェスティバルに協力して「名作の舞台裏 in ぐんま」として、山田太一脚本の『男達の旅路』シリーズから「車輪の一步」を取り上げる分科会の主催団体の一つとなっています。

いずれの集まりも、スタッフとしてご協力いただける方を募集していますので、ご協力いただける方は研究所の太田までご連絡下さい。特に全国ボランティアフェスティバルは5～10名程度の協力者を求めています。

1、 対談「イスラム教徒として生きる」～鮎川佳緒理さんを迎えて～

講 師：鮎川佳緒理さん（高知市教育委員会職員）

聞き手：研究所長 太田敬雄

日 時：2006年8月24日（木）午後7時～9時

会 場：安中市文化センター 3階大会議室

主 催：安中市国際交流協会・NPO法人国際比較文化研究所

後 援：安中市教育委員会（予定）

参加費：無料

イスラム文化について、その食事から信仰まで、またトイレの話から Jubah や HALAL の話まで、あるいはマレーシア社会と日本社会、アメリカ社会の比較など、話はどちらに飛ぶか分かりません。鮎川さんの体験と感想を余すところ無く語っていただこうと思います。

鮎川さんは日本の高等学校卒業後、渡米して大学、大学院を終え、イスラムに改宗して、マレーシアの男性と結婚されました。今はイスラム教徒の服装で、高知市教育委員会で働いておられます。

鮎川さんはまた太田所長と同じ North Central College の卒業です。大学院は同じイリノイ州にある DePaul 大学でインフォメーション・システムズを専攻し修士を取っておられます。

今回は小学校3年生の息子さんと群馬まで来ていただきます。

会員の皆様のご参加をお待ち申し上げます。

2、 I I M Sとしては初めて東京で研究会を開催します

テーマ：森の有無と文化の関係 ～特にアジアの文化について～

講師：坂口春海氏（元国連開発計画職員。I I M Sの会員にもなっていました。）

聞き手：研究所長 太田敬雄

日時：2006年9月30日（土）午後6時～8時

会場：駿河台大学法科大学院校舎 〒101-0062 千代田区カンダ駿河台 2-9-8

TEL：03-5259-3377 （JR御茶ノ水駅下車、徒歩6分）

主催：NPO法人国際比較文化研究所

NPO法人森の文化フォーラム

参加費：無料

申込：国際比較文化研究所 FAX：027-382-6393 Mail:mtharunac@xp.wind.jp

坂口氏は1946年生まれ。群馬県立高崎高等学校卒業後、元駐日アメリカ大使、ジョゼフ・グルーにちなんだグルー奨学金を受けて渡米。Bates Collegeで心理学専攻。日本青年海外協力隊員などを経て、1978年からは国際連合開発計画職員として活躍。

長期（1年以上）赴任した国だけでも、中国、ネパール、アフガニスタン／パキスタン。最後はパプアニューギニアに2000年から2004年UNの現地コーディネーターとして活躍されました。

坂口さんの豊富な経験からアジアの文化について大いに語っていただきます。

国際比較文化研究所の会員は全国に居られますが、これまで群馬県以外での活動は皆無でした。今回、森の文化フォーラムとの共同開催することによって、東京での開催が可能になりました。会場は当研究所副所長の栗原優氏の勤務先である駿河台大学を使わせていただくことになりました。

便利な場所での開催ですので、東京の会員の方は勿論、近隣の会員も積極的にご参加下さい。

3、 全国ボランティアフェスティバル

今年11月に第15回目の「全国ボランティアフェスティバル」が群馬で開催されます。今年のボランティアフェスティバルからボランティア団体だけでなく、NPO法人が参加するようになったことです。I I M Sも下記の分科会を立ち上げる役割を担います。

このフェスティバルは11月3日（祝）・4日（土）の二日間、ぐんまアリーナと前橋市民文化会館をメイン会場に、また分科会は中部、西部、吾妻、利根沼田、東部の五ブロック会場に分かれて開催されます。46もの分科会が群馬全域で開催されます。

分科会番号14 『名作の舞台裏 IN ぐんま

～「車輪の一步」から見るボランティア活動の流れ～』

日時：2006年11月4日（土）午前9時～12時30分

会場：前橋市民文化会館 小ホール

プログラム：9時～10時30分

山田太一脚本、鶴田浩二主演『男達の旅路』から「車輪の一步」上映
10時40分～12時半

対談：「車輪の一步」の脚本家、演出家、俳優による対談

講師：演出家 **中村克史氏（司会）** 脚本家 **山田太一氏**

俳優 **斉藤洋介氏、 斉藤とも子氏**

実施主体：財団法人放送番組センター、放送人の会、NPO法人国際比較文化研究所
群馬NPO協議会

定員：600名（参加申込方法は次ページ参照。）

参加申込：下記に **8月10日までに参加申し込み**をしていただくことになっています。

申込先は〒371-0024 群馬県前橋市表町 2-9-11 朝日生命ビル (株) ジェイティブー
ー関東前橋店「第15回全国ボランティアフェスティバルぐんま」係
TEL:027-224-4113 FAX:027-221-0221

☆申込方法は個人としてでも団体グループ (国際比較文化研究所) のメンバーとしてでも結構です。氏名 (ふりがな)、性別、年齢、〒、自宅住所、電話 (FAX) を明記の上、「中部ブロック」の「分科会番号14 (名作の舞台裏 IN ぐんま)」と申し込んで下さい。
なお、分科会だけの参加の場合は参加登録料として1,000円かかります。
申し込みが大幅に遅れた場合は研究所までご相談下さい。

4、中国語講座と台湾交流旅行

前回予告しました中国語講座ならびに台湾交流旅行については、まだ準備段階です。秋から中国語講座をと考えていましたが、準備にもう少し時間が必要な状況です。次回に具体的な計画をご報告できるように進めて参りたいと思います。乞う、ご期待。

＜2006年度新入会者＞ 次の方々が6月25日以降に入会されました。(敬称略)
上田昌昭、シャーリー・ジュティーン、大江士、坂口春海、岩井均、逸見智恵子。

＜会費納入状況＞ 2006年6月25日から7月28日までのご報告です。いつも研究所の活動を支えていただけて有難うございます。なお、重複してお振込いただいた場合は次年度分として受けさせていただきます。

新井隆 (06,07 前回記載漏れ。失礼しました。) 山崎恵美子 (06)、佐俣由香 (06)、佐藤貴雄 (06)、杉浦隆一 (06)、前澤優子 (05,06)、神保松江 (06)、奥田聖幸 (06)、中村明佳 (06,07)、川村十朱子 (06)、中澤宏則 (06)、福田則行 (06)、岩本謙 (06)。

＜寄付＞ 次の方々にご寄付をいただきました。有難うございます。研究所の活動のために大事に使わせていただきます。小山實、中村明佳、川村十朱子、岡本武昭、福田則行、上田昌昭、シャーリー・ジュティーン、大江士、中村みどり。(計76,000円)

＜会費納入のご寄付のお願い＞ 会員の方で、会費未納の方には振込用紙を同封させていただきます。現在、研究所の活動はほぼすべて会員の皆様の会費とご寄付でまかなわれております。皆様の変わらぬお支えをお願いします。

今回は特に、次々と活動を実施しますので、それらの活動を成功させるため、皆様のご寄付と一層のご協力を宜しくお願いします。

＜お詫び:会員以外の皆様へ＞ 前回、お断り無しに会員以外の方々に振込用紙をお送りしてしまいました。決して入会あるいは寄付を強要するものではありませんでしたが、言葉不足であったことをお詫び申し上げます。今回は同封いたしませんので、ご寄付くださる方は恐縮ですが下記の郵便振込口座に「寄付」あるいは「入会」と明記の上、お振込下さいますようお願いいたします。

Newsletter 発行：特定非営利活動法人国際比較文化研究所

事務所：〒379-0124 群馬県安中市鷺宮 3 4 1 3 - 3

電話：027-382-5998 FAX：027-382-6393

ホームページ：<http://www8.wind.ne.jp/mthc/>

e-mail：mtharunac@xp.wind.jp

郵便振込口座番号：00510-0-61974 名称：国際比較文化研究所

